

中学年ブロック 実践内容

○日常の取組

中学年ブロックでは、昨年度の研究より、「主語・述語が揃わない」「文がねじれていく。文章の中心が明確ではない。主題からずれていく。」「表記、漢字、書き方等、個人差がある。」のような課題が拾い上げられた。これらの課題を、本年度の児童の実態と照らし合わせながら、子どもたちに身につけさせたい力（書く力）として、特に、「推敲」に重点を置いて研究を進めて行こうと考えた。しかし、まだ、「書くこと」に抵抗がみられる児童がいること、「書く内容」をしっかりと見つめさせていきたい、などの思いが挙げられてきた。そこで、本年度は、昨年度に取り組んだ「構成」をもとにした「記述」を中心として重点的に取り組みながら、「推敲」にも目を向けさせていこうと意思統一を図ってきたものである。また、日常的な取り組みについては、中学年ブロック各クラスにおいて、一貫した指導が行えるよう、以下の2点を設定し、継続した指導を心掛けてきた。

① 週末作文への取り組み

一人一人の児童が、「1番何を書きたいのか」に迫っていく。毎回の取り組みの積み重ねによって、「何を書いたら良いのかわからない」等、の解消ができるのではないかと。

毎回、テーマに加えてめあてを設け、それに沿って書かせる取り組みを続けてきている。また、「昨年度中学年ブロックで使用した原稿用紙」の改良を行って、取り組ませてきた。

② 1分間スピーチ

朝の会及び帰りの会において、あらかじめ用意しておいたメモをもとにしたスピーチを行い、話す力だけでなく、友達のスピーチを聞く力も同時に育てていくものである。

聞き手を意識させることによって、自分の言いたいことをうまく伝えるためには、どのように話したらわかりやすく伝えることができるのかを中心として考えさせていきたい。そのためには、スピーチメモの活用により、構成力の育成に努めていくことが大切であると考え、「はじめ・中・終わり」の構成でメモを書くことができるよう、共通のスピーチメモを用意して取り組ませてきた。

○ 成果と課題

【成果】

- ・ 何を書くかをはっきりさせながら、書く視点を焦点化する取り組みを続けたところ、「始め、中、終わり」それぞれの内容が適確になってきた。文章の組み立て方がわかってきて、主題からずれたり、文章がねじれたりしなくなってきた。
- ・ 「まとめの段落の記述」に力を入れてきたので、スピーチや週末作文のまとめが一文で終わらなくなってきた。
- ・ 反復練習によって、人前で話すことが苦手な児童がメモをもとに1分間話せるよう

になってきた。

- ・ 長文ではなく、2文くらいの短文で分ける指導を徹底して続けてきたところ、主語や述語の使い方が理解できるようになり、正しい文章表現ができるようになってきた。
- ・ 教師からの指示がなくても、「書くこと」に対して自主的に取り組めるようになってきた。週末作文やスピーチメモ、教科書の意味調べで例文を書くなど、日常的に書かせる取り組みを続けたところ、「書くこと」に対する抵抗がなくなってきた。伝えることの面白さを感じてきている。
- ・ 連絡帳や授業中の板書等、時間を決めて量を書かせる取り組みを続けてきたところ、短時間で一定量の文を書くことができるようになった。
- ・ 書いた文章の発表をしたり、友達の発表を聞くことを意識的に取り組ませてきたことも、書く力が伸びる要因となっている。
- ・ ワークシートをブロックで検討することで、今後に生かせるものが作成できた。

【課題】

- ・ 語彙が増えないと文章力は上がらない。学習した例文などを実生活の中で使えるようになっていたり、読書量を増やしたりすることによっても変わるであろう。
- ・ 習った漢字を日常的に使える児童と使えない児童の差が大きい。
- ・ メモをもとにスピーチすることについても、苦手な児童と得意な児童の差が大きい。中には、箇条書きで書くことが難しい児童や全文を書かないと不安な児童もいる。また、「始め、中、終わり」で組み立てることが、まだ、難しい児童もいる。
- ・ 文語表現と口語表現の区別ができていない。中学年でしっかりと教えていきたい。
- ・ 生活作文を書かせると、感情を表す部分の表現が乏しくなってしまう児童がいる。
- ・ 自分で見直して文を正しく修正していくことは難しい。友達同士で書いた文章を読み比べながら、アドバイスができるような学び合いの場も授業の中に埋め込みながら、設定していきたい。(推敲&校正)
- ・ まだまだ自由に文章を書くことに不安がみられる児童もいるので、自信を持たせたい。国語以外の各教科、社会、算数、理科、あるいは体育など、様々な場面で「書くこと」に繰り返し取り組ませていくことが必要であろう。しかし、個人差も大きいので、授業中に児童一人一人に合わせた「十分な書く時間」を保証することが難しいと感じている。